

**私達の青壮年部活動**  
**—ヤレさせ！門川・夢おこし—**

**門川漁業協同組合青壮年部**  
**姫野郁夫**

## 1. 地域の概要

私の住む門川町は、宮崎県北部、人口約19,000人の農林漁業の町である。商工業都市の延岡市と日向市の間に位置し、両市のベッドタウンにもなっている。

沿岸の海岸線は、昭和44年に指定された日豊海岸国定公園に属し、沖には乙島、ピロウ島をはじめ、多くの小島や瀬礁が点在する磯釣りの名所ともなっている（図1）。門川では昔から漁業が重要な地場産業であり、「魚の町」として県内外に知られてきた。

## 2. 漁業の概要

私の所属する門川漁協は、組合員200名、平均年齢58歳で、小型底曳網、機船船曳網、近海延縄を主に営んでいる。図2に示すとおり、平成7年度の属人水揚量730トン・5億426万円、そのうち近海延縄254トン・2億3百万円、機船船曳網160トン・1億2千万円、小型底曳網125トン・6千万円、養殖69トン・5千万円である。かつては10統以上あったまき網漁船の廃業等により水揚が激減し、残念ながら近年の漁獲は低迷を続けている。

## 3 研究グループの組織及び運営

門川漁協青壮年部は昭和42年に設立され、青年漁業者の親睦と教養を高める目的で活動してきた。しかし、昭和60年代になって一時的に実質的な活動が停止してしまい、同世代の親睦の場が失われつつあったことから、平成4年に若手漁業者が結集して青壮年部活動が再開された。

現在、小型底曳網、機船船曳網、養殖等を営む20代から40代まで、24名の部員で構成され、部長、副部長、会計、事務局各1名で運営されている。

## 4 研究・実践活動課題選定の動機

私たちは低迷する門川漁業の将来に強い危機感を抱いている。「漁業の経営が厳しい今こそ何かやらなくては。」という思いで、小さくても自分たちでできる青壮年部活動を行うことにした。

主に先進地視察や研修会による学習活動、アワビの中間育成放流、地元で行われるイベントへの参画等を行っているが、特に部員の意識改革につながる活動に重点を置いている。

さらに、自分たちが漁業を続けていくために、新しい漁村や漁民の在り方や海洋レジャーとの共存等を検討し、後継者の確保や町の活性化につなげる手掛かりにしたいと考え、異業種交流や環境を守るPR活動、釣り筏の運営を行っている。

## 4 研究・実践活動状況及び成果

平成8年の青壮年部活動は、表1に示すとおりである。

### 1) 地域での異業種交流と植樹祭参加について

青壮年部では、町のイベント等に積極的に参加する事で、色々な分野の団体や個人の人

と交流している。中でも、特に門川町森林組合との交流が盛んで、かねてから漁業用の竿竹、タモ柄の木材を購入すること等につながりがあった。

平成6年夏、町の植樹事業関係者との親睦会が乙島で行われ、青壮年部が筏釣りやマダイの販売に協力した。この交流会で森林が海の生物を育てる栄養源を作っているという話を聞き、林業と漁業の深いつながりを実感し、漁民による植樹に興味を抱いた。

平成8年2月、門川町制60周年を記念した植樹祭「森と小鳥の祭典」が行われた。林業関係者のイベントだったが、「漁協も植樹に参加しないか」との誘いがあり、早速、青壮年部が参加を申し込み、組合長と青壮年部員が漁業者代表としてヒノキとヤマザクラを植えた。その後も植樹した木が野生動物の食害にあわないように、森の囲い網用として古漁網を回収し、提供するといった協力を続けている。

## 2) 自然環境の保護PR活動

カンムリウミスズメ(図3)は、日本近海の離島や瀬礁で繁殖する小さな海鳥で、日本に生息する数は5,000から6,000羽と推測される天然記念物である。門川沖のビロウ島は、このカンムリウミスズメの日本最大の繁殖地として専門家の注目を集めている。

私達は、平成8年の門川みなとフェスティバルにおいて、1年がかりで企画したカンムリウミスズメのデザインTシャツの販売を行った(図4)。

「なぜ漁師が海鳥のTシャツを作るのか？」と疑問に感じるだろうが、沖の漁船に近寄って来る親子連れのカンムリウミスズメは、私達を和ませてくれるマスコットの存在であることや、海に生きる彼らの生活が漁師の生き方に通じることから、漁師が行う自然保護のシンボルにふさわしいと思う。漁業者自ら手作りのパンフレットを添えてTシャツ販売することで、一般の人に海を守る漁業者の熱意を伝えられ、部員自身も豊かな自然あってこそ海で生きられることを自覚できた。

## 3) 観光漁業の試み・釣り筏

一般の海洋レジャーブームに対応し、海に生きる漁業者としても視野を広げて、社会ニーズに順応できる姿勢を育てるという課題として、レジャーの共存の研究のために、平成5年7月から乙島の地先で「つり筏」を始めた。つり筏の保守管理を青壮年部が行い、筏までの渡船料の一部を青壮年部の活動資金にあてている。

つり筏の宣伝は、部室前の手製の看板とクチコミ程度であるが、筏が波静かな湾内にあり、トイレもあるという手軽さが受けたせいか女性客も多く、年間約600人が筏釣りを楽しんでいる。更に、最近では固定客が増えており、町外の客も全体の9割を占めていることから、釣り筏の存在が門川に観光客を引き込む力になる可能性を秘めていると思う。

## 5 波及効果

青壮年部活動が再開され、新たな取り組みをするたびに青壮年部員の団結力と行動力がアップし、ただ漫然とではなく、問題意識を持って活動するようになったと思う。これまで役員しか出なかったような研修会等にも部員が参加し、様々な情報を吸収しようという積極的な姿勢が見えてきた。

漁協においても青壮年部の活動が認められ、先輩達からも漁協の企画運営等に意見を求められるようになり、青壮年の声が反映されるようになったと思う。

最初は「漁業と何の関係があるのか？」と思っていた植樹やカンムリウミスズメのPRといった活動に目を向け、漁業環境の保護につなげようという意識が生まれてきた。

また、地域交流のイベントや釣り筏はいつも好評で、「来年も是非参加してほしい。」と依頼があるが、イベント等への参加は、私達にとって消費者やレジャー客といった漁業者以外の人の意見や要望を聞き、逆に漁業者の立場をPRできる絶好の機会となっている。

## 6 今後の計画と課題

私は、平成3年までは父親とともに地元のまき網漁業に従事していたが、まき網漁船の廃業を機会に漁業をやめ、長距離トラックの運転手に転職した。しかし、漁業で独立する夢を捨てきれず、地元の漁業仲間に相談して「やはり、漁業こそ自分にあった魅力的な仕事だ。」と確信し、平成7年に漁船を購入し、底曳網漁業にUターンした。

着業の際には、新たに学ぶべきことが山ほどあったが、漁協や青壮年部などの協力に支えられ順調な滑り出しができたと思う。同世代の仲間の存在が、私を漁業再開に大きく影響した。

今、門川では後継者問題に直面している。新たに漁業を志す若者が少ないことで、大変はがゆい思いをしている。これからの漁業に後継者を呼び込むためには、青壮年部が若い漁業者の存在感を地域に強くアピールし、漁業の魅力を伝える事が第一だと思う。

そこで、私達はまず強い団結力を維持し、問題意識を失わないように研修活動を充実させていきたい。そして、門川漁協青壮年部の独自性を打ち出した活動、例えば漁業種類の垣根を越えた栽培漁業の取り組みや、植樹等を通じた山との交流といった資源と環境の維持を図る活動を行いたいと考えている。

これまでの交流活動で得られた異業種や消費者とのネットワークを大いに利用して、多くの情報をキャッチし、新しいスタイルの漁村づくりを目指したいと思う。私の発表題名の「ヤレさせ！」という言葉は、門川の勇壮な漁村の祭り、尾末神社大祭のだんじりの掛け声で、「さぁ、持ち上げろ、差し上げろ。」という意味である。私達の夢は、熱気あふれるだんじりのように、漁協や地域を「やれさせ！」と盛り上げる原動力になることである。

表 1 平成 8 年度の主な年間活動

月	活 動 内 容
1 月	青年・女性漁業者交流大会
2 月	森と小鳥の祭典・植樹祭
3 月	若者ふれあいボーリング大会 (異業種グループ交流)
5 月	平成 8 年度 青壮年部総会
7 月	宮崎県豊かな海づくり放流祭
8 月	魚霊祭・盆踊り、綱引き大会 宮崎シーポートフェスタ (魚のつかみ取り) 門川みなとフェスティバル (Tシャツの販売)
10月	先進地視察研修・福岡県 (資源管理と観光漁業)
12月	青年・女性漁業者交流大会 異業種グループ交流会

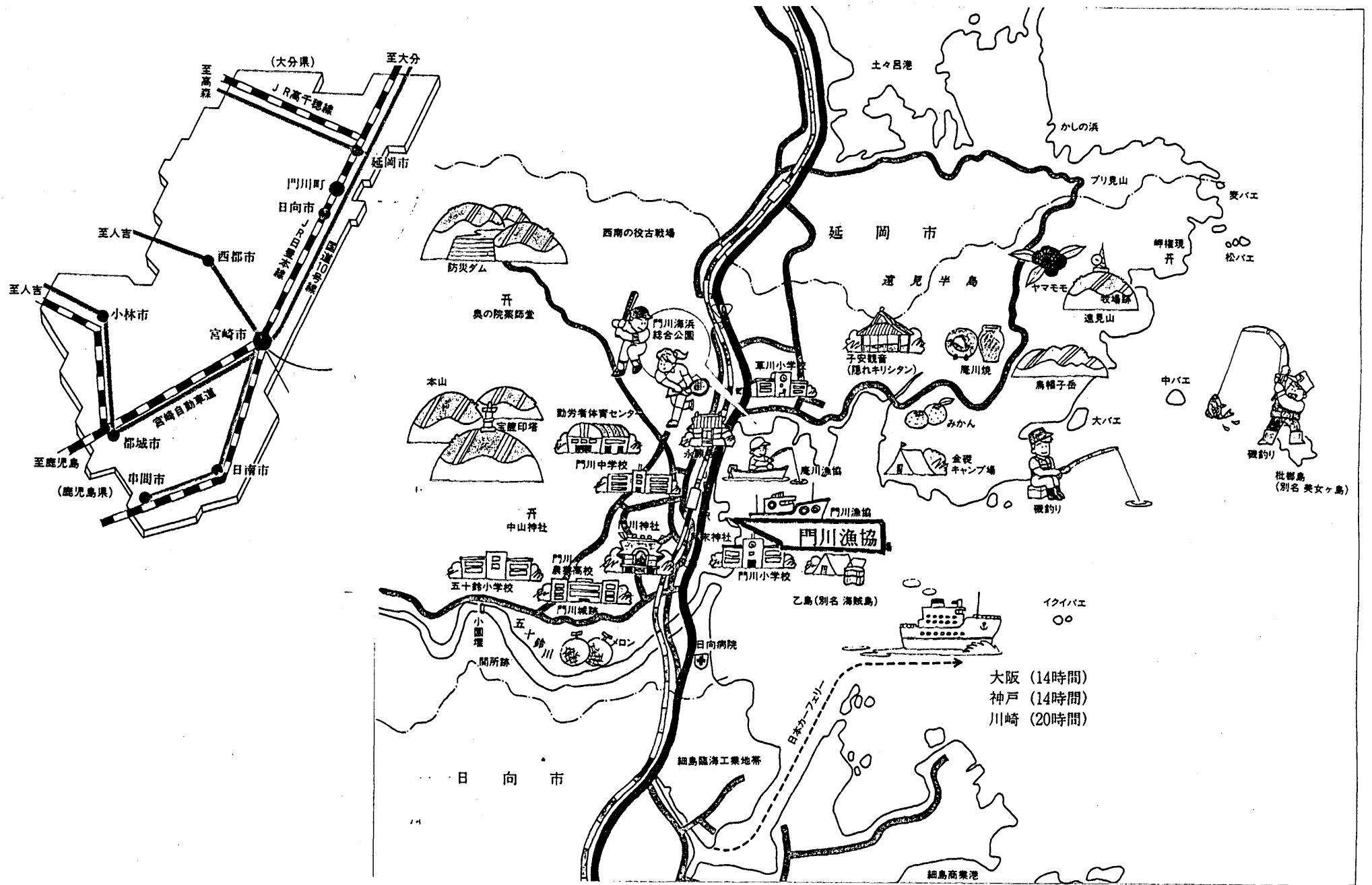


図1 門川町の位置図

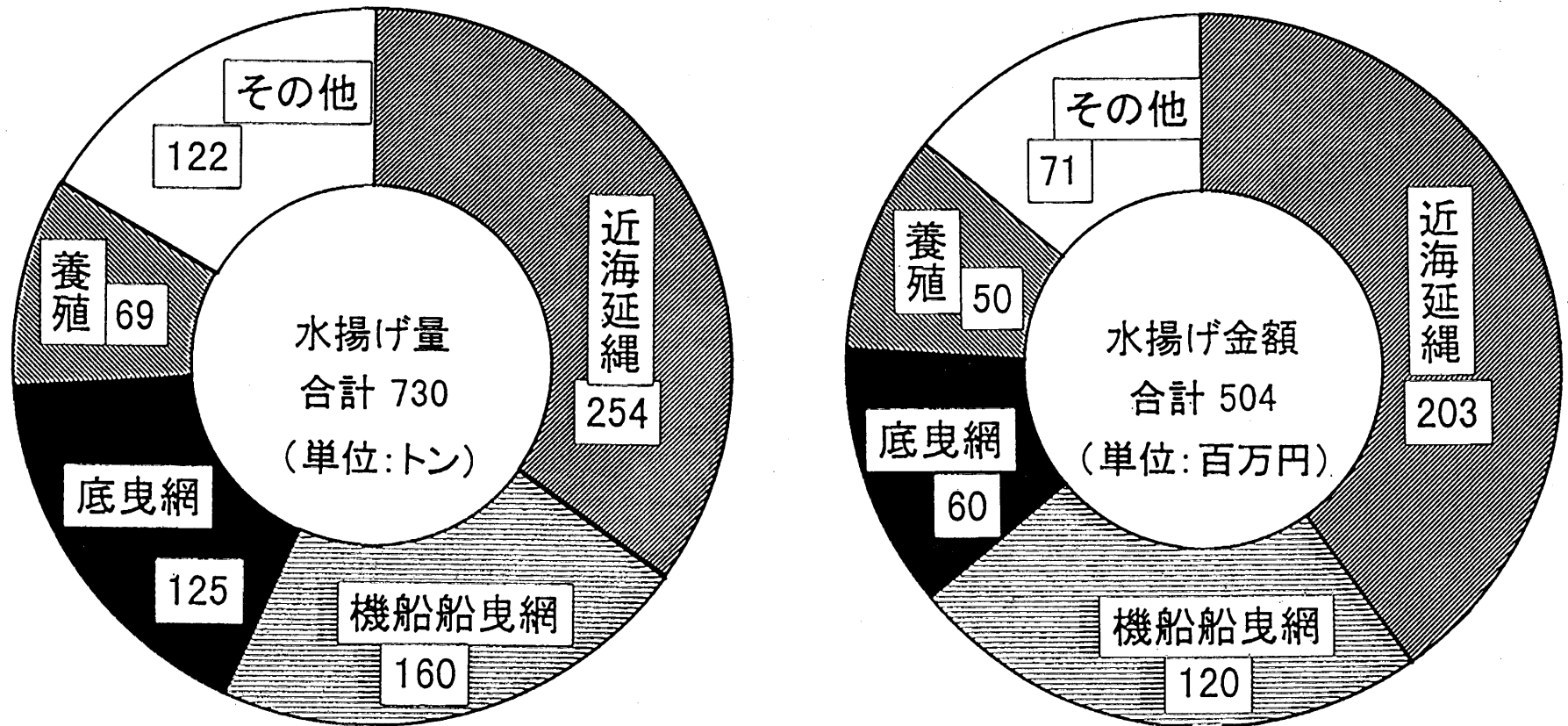


図2. 平成7年度 門川漁協属人水揚げ



図.3 カンムリウミスズメ

平成8年8月30日 金曜日  
1996年 (第10246号) 日刊

# 夕刊デイリー

THE YUKAN DAILY

(昭和35年4月5日第3種郵便物認可)

購読料(月) 一郵直配 3195 郵送料 8000 円円

①夕刊デイリー新聞社  
延岡市大貫町2丁目1302番地  
〒882 代表 ☎35000  
FAX ☎35100 ☎35050  
郵便振替口座 01950-2-15519  
日向支社 日向市春原町2丁目15番地  
☎36622・FAX ☎7376  
宮崎支社 宮崎市宮田町3番一文字ビル  
3階 ☎33625・FAX ☎9082  
高千穂支局 高千穂町三田井188番地1号  
☎7200・FAX ☎7410

カントムリウミスマメのTシャツ  
あすのみなとフェスで販売

## 門川漁協青壮年部

門川漁協の青壮年部(黒田朝明部長、二十五人)はこのほど、国の天然記念物の海鳥カントムリウミスマメをデザインしたオリジナルTシャツ116百枚を製作。あす三十一日に同漁協周辺である「門川みなとフェスティバル」で展示即売する。

絶滅の心配もある同鳥の世界最大の繁殖地といわれるのが、同漁港の沖合に浮かぶ無人島・枇櫛(びし)島。貴重な鳥の存在を通じて、環境問題も自然保護へ

の関心が深まればと、一年がかりで進めてきた。

Tシャツのカラーはブルー。表にカントムリウミスマメの親子が寄り添うほは



笑ましい姿が描かれている。デザインは四年前から現地で生態調査を継続する東邦大大学院博士課程の小野宏治さん(三〇)と東京都「門川の豊穡(ほうじょ)う」な海と美しい自然は、カントムリウミスマメをはじめ多くの命をはぐくみま

す。海はわれわれ自身の生命の源でもあるのです。当日はTシャツに小野さんのメッセージを添えて呼び掛けることにしている。定価は二千円。

図4 青壮年部のTシャツ販売についての新聞記事